

令和元年度事業報告及び決算報告書

事業報告

I. 総括

第74回国体では、第73回大会で天皇杯38位、皇后杯39位と大きく目標から後退する結果を受け、奮起を期した大会であったが天皇杯順位44位とさらに大きく後退する結果となった。特に少年種別での47位は順位後退の大きな要因となった。

第75回国体冬季スキー競技会では、昨年、一昨年と逃した天皇杯・皇后杯の獲得を目指した。男子総合（天皇杯）4位、女子総合（皇后杯）は3年ぶり8度目の優勝と健闘が光り、今年度開催の鹿角スキー国体へ繋がる結果となった。

しかしながら、本国体少年種別47位の結果の通り、昨年に続いて活躍が乏しく、少子化も進む本県少年スポーツの今後の大きな課題であると考えられる。昨年、一昨年の課題を明確にしながら、本大会に向けて「チームAKITA 1,000点プラン」に掲げる強化対策を着実に推進し、目標達成を目指すこととなる。

社会人チームの支援では、バドミントン北都銀行松本・永原ペアが世界バドミントン選手権ダブルスを2連覇、世界ランキング1位（2020年5月末時点）になるなど国内外で活躍が目立ち、開催が1年延期されたものの東京オリンピックでの金メダル獲得の可能性も感じられる。また、バスケットボールの男子はJR東日本秋田が国体3連覇を果たし、女子は秋田銀行が第2回全日本社会人バスケットボール地域リーグチャンピオンシップで2連覇を達成するなどの活躍をみせた。

アスリートの就職支援については、平成31年度目標としていた3人のマッチングが成立し、延べ14人が県内企業に就職した。求人側の採用意欲は高いものの、アスリートの就職意識が低いことから、大学生を中心に制度の周知徹底と企業情報の提供に努める。

生涯スポーツの振興では、総合型クラブ会員が地域交流会に多数参加し交流を深めたほか、4年連続、全国唯一、全市町村参加のチャレンジデーで70万人余りの県民が運動・スポーツを行った。

その他、スポーツ指導者研修を実施し、指導者養成と資質向上を図った。

また、スポーツ少年団活動では、交流大会を開催し団活動の活性化を図ったほか、スポーツ少年団指導者育成のため、養成講習会や研修会を実施した。

II. 事業内容

《公1》競技スポーツ事業

【4,847千円】

1 第70回県民体育大会

(1) 第70回県民体育大会の運営に必要な経費の一部助成

40競技 8,095名が参加

《公2》スポーツの競技力向上及び普及等に関する事業

【105,940千円】

1 競技力向上対策事業

(1) スポーツ医・科学の活用

スポーツドクター、トレーナーによるスポーツ医・科学的サポート

①国体選手・指導者のメディカルチェック及びサポート

②国体への本部役員帯同ドクターの派遣 本大会3名・冬季大会3名

③国体への本部役員帯同アスレティックトレーナーの派遣 本大会3名

- ④ドーピング防止講習会の開催
国体出場選手202名 [9月1日]
スポ少指導者・保護者200名 [11月17日、令和2年1月25日、2月2日]
- (2) 東北ブロック大会・国民体育大会への選手団派遣
- ①東北ブロック大会兼第46回東北総合体育大会(福島県) [8月23日～25日(主会期)]
エントリー数 36競技 904名が参加
- ②第74回国民体育大会本大会(茨城県) [9月28日～10月8日(本大会)]
エントリー数 32競技 403名が参加
[結果] 天皇杯44位(707.5点) 皇后杯43位(433点)
*第74回国民体育大会報告会の実施 [11月25日]
- ③第75回国民体育大会冬季大会
[スケート競技会 令和2年1月29日～2月2日](青森県八戸市)
エントリー数 1競技 13名が参加
[結果] 天皇杯33位(10点) 皇后杯25位(10点)
[スキー競技会 令和2年2月16日～19日](富山県富山市、南砺市)
エントリー数 1競技 85名が参加
[結果] 天皇杯4位(114点) 皇后杯1位(57点)
- ◎冬季大会[スケート・スキー競技会]総合成績
天皇杯9位(134点) 皇后杯7位(67点)
- (3) 秋田県高等学校強化拠点校制度等による選手育成・強化
- ①秋田県高等学校強化拠点校
13競技、拠点校18校
拠点校の激励・戦力分析の実施
監督会議の実施 [5月14日]
- ②中学生強化選手の指定・研修
選手の指定 [6月29日] 14競技 65名
[11月23日] 4競技 25名
メディカルチェック(身体検査・採血検査)[6月29日、11月23日]
資質・競技力向上研修(フィジカルトレーニング、宿泊研修等)の実施
[8月31日～9月1日、11月9日、令和2年2月22日(中止)]
- (4) テクニカルアドバイザー等による競技力向上
テクニカルアドバイザー(11名) ジュニア育成アドバイザー(2名)を配置
- (5) 社会人チームの支援及び強化
国体等で活躍する社会人スポーツ選手の競技力向上のための支援
- (6) トップアスリートの活躍を支援する取り組み
- ①現役アスリートが県内に就職し競技を続行できるようにするため、アスリート就職推進アドバイザーを配置し、求人・求職情報の収集とマッチングサポートを実施
(H31マッチング状況: 斡旋者8名、求人8社 事業所登録: 延べ35社)
- ②本県出身の五輪・パラリンピック候補選手の支援(支援額249千円)

2 スポーツの普及・振興を図るための広報活動

- (1) 機関誌「スポーツ秋田」(年3回 各2,000部)
- (2) スポーツ関連情報をホームページで発信

3 加盟団体が実施したスポーツ事業への助成

- (1) 地域団体及び学校体育団体へ助成(28件):加盟団体育成事業交付金
- (2) 競技団体へ助成(8件):スポーツ振興助成事業助成金

4 体育・スポーツの振興に顕著な功績があった者の顕彰

- (1) 秋田県スポーツ賞表彰 [令和2年3月10日](延期)→[令和2年6月23日](中止)
功労賞7名、特別功績者賞1名、栄誉賞4名、生涯スポーツ賞(個人1名・団体1)、
国際優秀賞3名、国際奨励賞2名、優秀指導者賞1名、栄光賞(個人37名・団体12)、
奨励賞(個人4名・団体3)
- (2) 人見スポーツ賞表彰 [令和2年3月26日](延期)→[令和2年6月23日](中止)
個人の部 鈴木 優花(陸上競技・大東文化大学2年)
団体の部 北都銀行バドミントン部 永原和可那・松本麻佑 組
- (3) 畠沢国体賞表彰 [令和2年3月26日](延期)→[令和2年6月23日](中止)
個人の部 関本 萌香(陸上競技・早稲田大学2年)
団体の部 バスケットボール競技 秋田県成年男子チーム(JR東日本秋田)
- (4) 辻ジュニアスポーツ大賞表彰 [令和2年3月26日](延期)→[令和2年6月23日](中止)
個人の部 内藤 晴樹(バスケットボール競技・城東中学校3年)
団体の部 秋田アスレティッククラブ フリーリレーチーム 競泳

5 人見スポーツ傷害基金による傷害防止対策事業

研修会の実施 他
死亡弔慰金の給付 該当なし

6 競技団体が実施する競技会等の共同主催(後援)

共同主催 2件(県体、東北総体)
後援 69件

《公3》生涯スポーツ振興事業

【26,512千円】

1 総合型地域スポーツクラブの育成指導・助言

- (1) 総合型クラブの指導・助言
県内 74クラブ

- (2) 総合型クラブ連絡協議会事業

- ①総合型クラブ地区交流会の開催

県北地区クラブ交流会:7月25日 参加者 72名
県央地区クラブ交流会:10月28日 参加者 120名
県南地区クラブ交流会:10月11日 参加者 23名

②総合型クラブ全県交流大会の開催

大仙市：9月8日 参加者 63名

三種町：10月26日 参加者 180名

③クラブネットワークアクション2019の開催（日本スポーツ協会主催）

宮城県仙台市：11月23日～24日 参加者 150名

④健康寿命延伸に向けた取り組み

総合型クラブに「円熟健康運動普及員」を配置（3カ年計画：1年目）

・委託先 秋田県総合型地域スポーツクラブ

・委託名 健康寿命延伸に向けた事業委託

・養成講習会の全課程を修了した38名を「円熟健康運動普及員」に認定

(3) チャレンジデーへの参加促進

県内全市町村で実施：5月29日 総参加者数 約70万3千人

2 スポーツ指導者養成のための講習会、研修会

(1) 指導者養成講習会

ソフトテニス：10月13日、11月23・24日 参加者 15名/日

(2) 指導者研修会

秋田市：6月29日 参加者 52名、12月1日 参加者 51名

3 スポーツ少年団の競技別交流大会、リーダー養成の研修会等の実施

(1) 交流大会

①第56回秋田県スポーツ少年大会（仙北市、7月26日～28日）

②第42回秋田県スポーツ少年団大会（各地、6月～令和2年1月、7競技）

例年は、8競技の実施であるが、雪不足や新型コロナウイルス感染症の影響からスキー競技が中止となった。

③東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会（3県で開催、7月～12月、3競技）

4競技を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響からミニバスケットボールが中止となった。

(2) リーダー養成（随時開催）

①リーダー総会（秋田市、5月23日：指導者6名、団員24名）

②ジュニアリーダースクール（仙北市、7月26日～28日：指導者10名、団員64名）

③リーダー研修会（秋田市、2月15日：指導者5名・団員14名）

④リーダーのつどい（秋田市、令和2年3月20日：中止）

(3) 海外交流事業

①スポーツ少年団日独スポーツ交流事業

[受入：7月29日～8月2日 五城目町 9名]

(4) スポーツ少年団モデル育成事業

①上小阿仁村、五城目町、羽後町においてスポーツ交流会を実施

4 スポーツ少年団認定員養成講習会等、スポーツ少年団顕彰等

- (1) 認定員養成講習会 7地区 1, 175名認定
- (2) 認定員等再研修会・育成母集団研修会 4地区 412名参加
(うち1回176名は、スポーツ少年団指導者研究協議会を兼ねて実施)
- (3) スポーツ少年団顕彰事業
功労者9名、優秀指導者6名、優秀単位団7団、優秀母集団5団
- (4) スポーツ少年団広報事業
 - ① 広報誌「スポーツ少年秋田」 (年2回 各2,930部)
 - ② 「スポーツ少年団の現状」 (年1回 1,050部)

《収益事業》

1 自主財源確保のための飲料水等販売事業

【5,464千円】

- (1) 自動販売機事業 (22施設 81台設置)
(事業収入 7,047千円)
- (2) スポーツ立県キャンペーングッズ販売事業 (ポロシャツ等)
(事業収入 36千円)

Ⅲ. 組織運営及び財政確立

1 組織の充実

事務局の実施業務の効率的執行のため、課・担当を横断した業務遂行に努めたほか、強化委員による競技団体ヒアリングの実施や「チームAKITA1,000点プラン」達成に向けての検討など強化対策に努めた。

2 財政の確立

(1) 賛助会員

法人74団体 個人29名
・受取会費 864千円

(2) 寄附金

法人75団体 個人34名
・寄附金総額 3,940千円

(3) 特別寄付金

秋田ノーザンハピネッツ(株)からの、バスケットボールの普及・振興等のための寄附
・寄附金総額 1,000千円

(4) 特定寄附金

五輪・パラリンピック候補選手を支援するため、チャリティーゴルフコンペを開催
・寄附金総額 294千円